

第35回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

☆コンピテンスとパフォーマンス

コンピテンスとは、ちょっと聞きなれないことばですが、言語に関する知識や、やりとりに関するルールについての知識のことをさします。人と人がコミュニケーションするときには、身につけておかななくてはならない最低限必要な基礎的知識だといえるでしょう。単語の意味や文法などは、言語的コンピテンスというように言われます。また、やりとりをする上でのルール、例えば話しかけ方、立場による話し方の違いに関する知識などは、コミュニケーション・コンピテンスというように言われます。

ところで、人と人がコミュニケーションしようとするとき、基礎的な知識（ここでは、コンピテンス）が備わっていたとしても、それだけでうまくコミュニケーションすることができるかということそのようなことはありません。これらの知識を実際にコミュニケーションの場で応用し、活用するためのスキルが身につけていなければならないのです。つまり、基礎的知識であるコンピテンスを活用するスキルが伴ってこそ、有効なコミュニケーションができることになるのです。

コミュニケーションを実行するレベルはパフォーマンスと呼ばれます。つまり、どのくらいコミュニケーションにエネルギーを割き、何に力を入れて伝えるのかといったことです。パフォーマンスはコミュニケーションの意欲にも左右されます。

当然、コミュニケーションしたいという意欲が高くなれば、パフォーマンスも高くなるということです。コミュニケーション・パフォーマンスには、コミュニケーション・コンピテンスが必要条件となります。なぜならば、いくらコミュニケーション意欲が高くても伝えたいと思っていても、コミュニケーションに関するルールや知識がないと、コミュニケーションは成立しないからです。同様に重要な役割を果たすものとして、コミュニケーション・スキルもあげることができます。

また、その他にパフォーマンスに影響をおよぼすものとしては、その人の性格や疲労といったものも考えられます。

1) 発達障がいがある子どもの場合は

発達障がいのある子どもの場合を考えると、単語の意味などの理解が不十分であることがあります。その単語の中に含まれる様々な意味を取り出すことができず、ひとつの意味でしか使うことができないことなどがあるということです。

また、発達障がいのある子どものなかには、普段、会話ではあまり使われることのない難しい言葉を使って話す子どもがいます。難しい言葉を使っているのに、その言葉の意味を知っていると思われがちなのですが、それらの言葉を会話のなかで使っているにもかかわらず、それらの意味を十分に理解しないまま使っていることの方が多いようです。話しているほどは理解できていないということです。しかし、話していることが原因で誤解を生むこともあります。周囲の人は理解していると考えるので、実際の能力よりも高く評価してしまうことがあるということです。その結果、子どもの実際の能力と離れた、不適切な指導になる場合もあると考えられるのです。分かっているはずなのにできないのはふざけているからだとか、わざと人を傷つけるような言動をする等と言われてしまうのです。しかし、本人には悪気はないのです。それゆえ、もたらされた結果に至った理由がわからず悩む人もいます。

また、エコラリアの多い子どもの場合には、文法等についても理解せずにコミュニケーションしていることがあります。

自分と相手の人称を間違えたりするようなこともあります。言語的コンピテンスに課題があるということです。また、立場を変えて話をすることができないために、言葉遣い等が不適切になり、相手を不愉快にしまうこともあります。このようにコミュニケーション・コンピテンスにも課題を抱えている子どもも少なくありません。

2) どのように対応したらよいのか

子どもたちは、わざと人を苛立てようとしてそのようなしているわけではありません。一生懸命伝えようとしているのですがうまく伝えられないためにそのようなになっていると考えなくてはならないのです。そのように考えた上で、その子どものコミュニケーション能力を適切に評価する必要があります。

話していることの何がわかっていて、何がわかっていないのか。コミュニケーション・スキルとしてどのようなことができている、どのようなスキルが身につけていないのかといったことを、冷静に考えて評価することが大切です。そして、子どもの頭の上に吹き出しをつけてみるということが必要になるでしょう。その子が言いたかったことを私たちが冷静になって考え、吹き出しをつけるようにするのです。そして、「それが伝えたいのなら、このように言ってみたらどうかしら」と提案し、練習するようにするのです。吹き出しが見えるようになったら、きっと楽しくコミュニケーションの練習ができるようになると思います。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンバフメント研究所) など